

平成20年3月17日

第 17 号

(年一回発行)

京都教育大学
附属京都小学校
東 櫻 同 窓 会



〒603-8164

京都市北区紫野
東御所田町37

TEL

(075)441-4166~7

発行人 千 玄室会長

題 字 千 玄室会長

印刷 中西印刷

—「東櫻同窓生のつどい」のお知らせ—



母校体育館兼講堂壁面「太陽にはばたく」(山崎正義先生作)



御 挨拶

東櫻同窓会会長 千 玄室

最近の「地球温暖化現象」の影響で昨年末から今年始めにかけて例年に比べて暖かな冬となりましたが、春の訪れを告げる櫻の蕾もふくらみ賀茂川の堤防に私達の先輩方の植えられた「志波む櫻」の開花のまたれる候となりました。

この「地球温暖化」の原因が、人間社会の排出する過剰の二酸化炭素にあることを考えますと学校教育・社会教育の一層の充実発展が望まれるところであります。

私達の母校附属京都小学校ではこの二十一世紀から人類社会の未来を担う子供達の教育について実践的研究を進めてこられ、その一環として附属京都中学校との連携の「小・中一貫教育」の教育課程の研究実績を基にもう一步進めて「九年制義務教育学校」設立に向けての研究を文部科学省の研究開発指定を受けて進めて居られます。

この研究成果が我が国の明日の教育充実の一つの基礎になることを期待しています。

さて、本年は三年毎の「東櫻同窓生のつどい」を開催する年に当ります。

平成二十年六月二十一日(土)に開催する為、常任理事会をはじめ各委員会の委員の方々がその企画を進めて戴いています。更に、今回の具体的な内容と進め方については、昭和五十三年、五十四年、五十五年卒業された比較的若い世代の方々と構成された実行委員会が準備が進められています。

各委員の方々の御努力に感謝の意を表しますと共に、この会に出来る大多數の会員の皆様に御出席戴き、同世代の会員同志となく広く世代を超えた会員の親睦と理解によって日本の将来の発展の力となることを強く念願致します。



御 挨拶

学校長 田岡 文夫

東櫻同窓会会員の皆様方には、本校の教育活動に対しまして、平素より多大のご支援をたまわりまして感謝に堪えない思いであります。改めて厚く御礼を申し上げます。

さて、私、堀内孜校長の後任として、附属京都中学校長を併任、平成十八年四月に赴任致しました。大変遅ればせながら、どうぞ宜しくお願い申し上げます。大学では長年、経済学を担当致しておりますが、大学以外の教壇に立つたことがありません。ただ、教育の重要性に対する認識は持ち続けて参りました。専門家ではないが故のユニークな見方、考え方を提供できればと考えております。

近年、国立大学法人化後の国立大学、とくに教員養成系大学は激動期にあり、対処すべき多くの課題を擁しておりますが、大学と附

属学校との関係形成というのがその一つであります。他の公立校、私立校にない、国立附属校の特徴といえましょう。これは従来からも求められてきたことではあります。今、とくに強く求められておりますのは、社会一般にわかりやすい形で示すことのできる強固で明確な関係形成ではないかと考えております。その意味でも、私は本校と附属京都中学校、京都教育大学、この三者間の意志の疎通、連絡橋としての役割にはとくに配慮してゆく所存であります。

赴任致しまして早二年近く、本校にとりまして同窓会、育友会のご支援の存在がいかに大きいかは、夙に伺ってはおりましたが、この間改めて強く認識したところでもありました。今後とも変わらぬご支援の程、お願い申し上げます。次第であります。

「東櫻同窓生のつどい」の開催に向けて

実行委員長 西村 祐一

六月二十一日(土)午後四時から中京区河原町御池の京都ホテルオークラ・暁雲の間にて三年に一度の「東櫻同窓生のつどい」が開催されます。今回は昭和五十三年卒、五十四年卒、五十五年卒の三学年で実行委員を務めさせて頂きます。幹事学年制になってから、四回目の開催となるようです。

前回の「東櫻同窓生のつどい」に同級生数名と昭和五十四年卒、五十五年卒の友人にも声を掛けて初めて出席させて頂きました。幹事学年の先輩方が頑張っておられるのを見て、「これは大変な仕事が続いてくるぞ。」というのが最初の印象でした。

まず初めに取り掛かったのは、実行委員になってくれる人を探すことでした。そのためにはまず学年の同窓会をやるうということになり、小学校卒業して初めての学年同窓会を開きました。とても楽しいひと時でした。又、協力してくれるという人も多く、頼もしく

感じました。昭和五十四年卒、五十五年卒の方も同窓会を開かれたようです。

私達幹事学年の仕事は「東櫻だより」第十六号、第十七号の発行と六月二十一日に行なわれる「東櫻同窓生のつどい」を企画、運営することです。「東櫻だより」については第十六号では昭和五十三年卒の大倉健君と二宮妙子さんに、今十七号では五十四年卒の中野浩君、五十五年卒の北澤彰人君にたいへんお世話になりました。また松井榮一先生には両号を通じてご指導頂きました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

これからは「東櫻同窓生のつどい」に向けて忙しくなります。人手も知恵も必要となります。幹事学年の五十三年卒、五十四年卒、五十五年卒の皆様には、この場をお借りして、準備段階からの或いは当日だけでも結構ですのお手伝いをよろしくお願い致します。とにかく一人でも多くの方のご参

加をお願いします。

今回の出し物は、昭和五十三年卒の同級生で能楽大倉流小鼓方の吉阪一郎君にお願いし、「能の囃子のコンサート」を開いていただきます。謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓の五人囃子をお楽しみ下さい。

吉阪君は幼少の頃よりおじい様から小鼓を習い、その後大倉流小鼓十六世宗家大倉源次郎氏に内弟子入門し、現在では国内の他、ヨーロッパやアメリカでも能公演に参加するなど、海外でも活躍されています。また京都の若手囃子方と「せぬひま」を結成し、能、狂言の魅力を伝える活動を展開されております。「せぬひま」とは「何もしない間」ということだそうです。詳しくは「せぬひま」のホームページをご覧ください。小学生の頃、観世会館に彼の舞台を見に行ったことを思い出します。

また今回もアンサンブル東櫻のメンバーによる女声コーラスのすばらしい歌声も披露して頂きます。日頃のレッスンの成果を聴かせて頂きます。毎月二度のレッスンを重ねられて、四年目に入られたそうです。当日を楽しみにして

おいて下さい。

さらに今回も恒例の福引き大会を予定しております。ぜひ出席頂いて、賞品をゲットして下さい。またこの場をお借りして、賞品のご提供をお願い申し上げます。

もちろんおいしいお料理とお飲み物もご用意させて頂きます。また前述のイベントもご用意しておりますが、東櫻同窓生として、お世話になった先生方や同級生、先輩方、後輩達と笑い、語り合えるのが、この「東櫻同窓生のつどい」の一番の良さだと思います。どうぞ多くの皆様にご参加頂いて楽しいひと時をお過ごし下さい。今回も土曜日の開催ですので、ご遠方からのご参加も期待しております。各学年の理事の方を中心にお友達をお誘い合わせ頂いて、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。また次期幹事学年の昭和五十六年卒、五十七年卒、五十八年卒の皆様には是非多数ご参加頂いて、引継ぎをさせて頂きたいと存じます。

六月二十一日京都ホテルオークラ・暁雲の間で皆様にお会いできることを願って、ご挨拶とさせて頂きます。

校舎改修と 九年制義務教育学校

副校長 多田 光利

東櫻同窓会の皆様におきましては、益々お元気で御活躍のことと存じます。「東櫻だより 十六号」で、文部科学省の研究開発指定の延長を申請しているところであることをお伝えしましたが、平成十八年四月一日付で、三年間の延長の認可がおりました。平成二十年まで、今の研究を充実させ、深めていくことになりました。この十七号では、京都中学校と共同で取り組んでおります「九年制義務教育学校設立に向けて」の現在の取り組み状況について少し紹介させていただきます。

本校では、キャリア教育を中心に研究を進めているわけですが、このキャリア教育を単に進路指導（出口指導）として捉えるのではなく、児童・生徒自らが主体的に自分の生き方や進む道を夢や希望を失わず、これまでの経験や学



習を糧に選択、決定することが出来るための教育だと考えます。児童・生徒がそれぞれの学年に応じて自ら主体的に選択、決定していくためには、これまでのような教育を受けてきたかが、重要な要素となります。その意味で、本校が進めているキャリア教育は、すべての教育活動において、社会に出てから役立つ実践力や能力を身に付けることをねらいにしています。そして、キャリア教育の具現化を図る授業として新教科「アンブレネラー」「サイエンス」「ラングージ」を開発しました。この新教科は小学五年生の中等部から

で、中等部は必修教科、中学二年生、三年生の高等部は異学年選択教科となっています。平成十八年十一月十一・十二日の両日には、北は北海道、南は沖縄まで全国の教育関係者の方々が、両日で延べ千三百名ほど参観に来られ、「道徳とキャリア教育」、「確かな学力とキャリア教育」について提案し、道徳、各教科、新教科の授業を発表しました。

平成十九年度は、平成二十年二月二十三日に京都駅前キャンパスプラザ京都で、『小・中一貫教育における学習指導要領と評価について』というサブテーマで、授業公開はなく生徒発表と研究報告という形で開催しました。サブテーマにもありますように、この平成十九年度は、「九年制義務教育学校」に応じた学習指導要領を作成しました。本校では、すでに小中一貫教育に取り組む中で、九年間での各教科や領域で育てたい力を明確にし、系統性、効率性を持たせたカリキュラムをつくってきました。しかし、現在の学習指導要領は、小学校、中学校、それぞれに個別に設定されているた

め、系統性、効率性を持たせたカリキュラムとはなっていません。そこで、「九年制義務教育学校」に応じた学習指導要領を作成することにしたわけです。

本校が作成した学習指導要領には、キャリア教育の視点を入れ、キャリア形成につながる目標ならびに評価の観点を取り入れました。また、四・三・二制に基づいた学習指導要領にもしました。小学一年生から四年生までの初等部では、基礎・基本の徹底を図ることをねらいとします。ここでは、学習や様々な活動の楽しさを実感させることを大切にしながら、反





復練習などを通して、各学年に応じた学力を学年の中で確実に身につけることを目指します。小学五年生から中学一年生までの中等部では、ひとりひとりの学力の定着を図ります。この三年間では、学習面においても心身の発達という面においても、着実な成長が見られるように、例えば、各教科、領域のカリキュラム作りでも、学習内容を系統的に整理し学力の定着を目指します。中学二年生、三年生の高等部では、ひとりひとりの個性の伸長を目指し、生徒の適性に応じて多様でかつ深い学習が進められるようにしました。この学

習指導要領においても、学年部の区切りは明らかにし、各学年部ごとの目標や内容を掲げることになりました。また、中等部においては教科の枠組みについても見直しました。

更に、この研究の特色として初等部一年生から教科学習としての英語科を設定しています。一年生から取り組むことで、英語に対するの抵抗感や先入観を持つことなく英語学習に取り組むことが出来、恥ずかしさもあまり感じずに英語で表現することが出来ると考えたからです。初等部では、気持ちや態度を育てることに重点を置きました。「体感する」をキーワードに、子ども達が英語に慣れ、親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることを目指しています。中等部では文字の導入、読む力の育成をねらい、知的な興味や関心が高まる発達段階に対応しつつ、物語の読み聞かせなどの情緒面での育成も目指します。高等部では、これまで身に付けた力が大きく開花する時期と位置づけ、スピーチ、インタビュ、プレゼンテーション、デイスカッ



ションなどの活動を通して実践的な英語活用能力の育成を目指します。統合的な学習の時間に英語活動に取り組むことも考えられますが、学年によって取り組み方が違っていき、各学年で活動したことがつながらなかつたりすると、いくら楽しむ英語活動にしても、その活動が十分に身に付かないことも考えられます。そこで、教育課程を設定し、教科学習として取り組み、九年間を見通した計画的、系統的な英語学習が大切であると考えました。

学校運営や組織面においては、平成十七年度に学校長は京都小学

校、京都中学校で一人とし兼務していただくことにしました。平成十八年度からは学内教頭を設置し、学校長、副校長、教頭という管理体制で臨むことにしました。

また京都中学校での北校舎、本館、体育館の耐震補強工事と改修工事に引き続き、京都中学校の南校舎も改修に入ります。それを受けて、小学五年生から中学一年生までの中等部と中学二年生、三年生の高等部を中学校校舎に、小学校校舎には、小学一年生から四年生までの初等部が入るという構想を持っています。これでハード面においても九年間を四・三・二制に区分し確立することに一歩近づくわけですが、三つの学校をつくるのではなく、あくまでも一つの学校にする意味で、京都中学校とお互いに共有しながら使用していきたい、校舎の一体化を目指していきたいと考えています。

キャリア教育を推進してきた優良学校や教育委員会などに授与される文部科学大臣賞を、本校も京都中学校と共に、平成十八年十一月二十四日に受賞しました。

東櫻同窓会ホームページ・リニューアルについて

宮崎 悟郎

昭和四十五年卒の宮崎です。従来、中西印刷様（「東櫻だより」を制作していただいております）のサーバースペースに間借りしていた東櫻同窓会ホームページ（ホームページという言葉は、正確にはトップページを指すため、以下、ホームページではなく、サイトと記述します）を、平成十九年三月にリニューアルさせていただきました。

今回のリニューアルを機に、独自ドメインを取得し、独立したサイト（toun-dousoukai.jp）としました。その結果、ヤフーやグーグル等の検索サイトで、「同窓会京都」のような複合ワードでの検索結果がより上位になり、ネットサーフィンをしていて偶然見つける機会や、サイトへのアクセス数増加も、多少は期待できるようになったと思われます。

すでにご存じの方、ご利用の方も多いと思いますが、最近パソ

コンに詳しくない個人でも、ブログという日記形式のサイトを、簡単に運用できるようになりました。また、個人のみならず企業サイトでもブログを利用することでサイトの活性化を図るという利用法も多く見られるようになっていきます。東櫻同窓会サイトも、[Blog](http://blog)というブログプログラムを採用しております。

ブログも含め、ブラウザ（イン



ターネットエクスプローラー等のウェブページ表示用ソフト）から記事の追加や更新を行うことが出来、自動的にページを生成してくれるようなシステムを、コンテンツマネジメントシステムと言います。このシステムの利点として、

- ・ ワープロを使う感覚で運営管理できる

- ・ 正しい文書構造でページが生成されるため、ロボット型検索エンジンに登録されやすい。

- ・ ブログに装備されているコメントやトラックバックというコミュニケーション機能を使うことで、サイトを活性化しやすい。

といったものが挙げられます。逆に、弱点・欠点として、

- ・ デザインの自由度が低く、似通ったものになりやすい。

- ・ 記事が増え、サイトの規模が大きくなるにつれ、過去の記事が埋もれやすくなる。

ということも言えます。

東櫻同窓会サイトの場合、いたずら書き込みを防ぐ意味でも、コメントやトラックバック機能はあえて採用しておりませんし、会員による記事追加も認めておりませ

ん。このような機能を使う場合、サイト自体にパスワード入力を求めるような閲覧制限をかける等の対策が必要と思われます。

サイトデザインについては、更新頻度が高いと思われるページはブログを利用し、同窓会沿革や校歌のような固定ページとメニューナビゲーションを統一しました。左側のメニュー部分は、縦に長いページをスクロールした際も、常に同じ位置に表示されるようにし、どのページからでも目的の項目へ直接移動できるように配慮しています。



Information
Event
Line-up
About Us
Letter
Song
Album
Contact

また、記事を追加すると、トップページには自動的に新着情報が表示され、そのタイトルをクリックすることで、該当記事へ直接移動することが出来ます。

「お知らせ」は同窓会からの告知や連絡、「行事のご案内」は文字通り会員の方にご参加いただける行事の案内を、「ニュース」には行事報告や卒業生の活動、母校ニュース等を掲載しています。さらに各項目はカテゴリー分けされ、右側の「カテゴリーリスト」から目的の記事を見つけやすくなっています。「検索」を利用して、任意のキーワードが含まれる記事を検索することも可能です。

「東櫻だより」では、バックナンバーを印刷物同様にパソコンの画面でご覧になることが出来（PDF化された号以降のものに限りまず）、「小学校校歌」では、現在一番のみですが、校歌をお聴きいただけます。

「アルバム」には、同窓会総会等、まとまった写真を追加していきたいと思いますが、現状では旧サイトにあった写真と、平成十五年の母校改築時の写真を掲載しています。

また、記事内の写真の多くは、

され、同一記事内の写真は順送り
や逆送りでご覧になれますので、
ゲーム感覚でいろいろお試しください。
さい。

現状では、掲載記事も多くありませんが、今後は会員の皆さまからいただいた情報を活用させていただき、アクセスする度に新しい記事が追加されているようなサイトにしたいと思っています。イペント告知やニュースがございましたら、是非「お問い合わせ」のページよりご連絡くださいますようお願いいたします。（全ての

<http://www.touou-dousoukai.jp/>

Information

Event
News
About Us
Letter
Song
Album
お問ひ合せ

お問ひ合せ

イベント告知やニュースなどの掲載ご希望、リクエスト希望の場もございます。こちらからお問ひ合せください。
※掲載いただく内容が必ず掲載（リターン）されるわけではありません。ご了承ください。

お問ひ合せいただく際は、以下のフォームにて登録事項をご記入の上、「送信」ボタンを押してください。

当サイトは安心してお問ひ合せいただけるよう、SSLによる暗号化を標準としています。お問ひのブラウザがSSLに対応している場合は、こちらのSSL対応フォームよりお問ひ合わせさせていただきます。

※メールアドレスの使用はできませんのでご注意ください。
※※の項目は必須項目となりますので、必ず入力してください。



お問ひ合わせ区分*
お選びください

お名前*
(全角)

ふりがな*
(全角)

性別
☐ 男性 ☐ 女性

お学年*
(年/月 4桁の数字で記入ください)

関性
☐ 法人 ☐ 個人

会社名
(全角)

法人の代表者(会社長)をこちらにご記入ください

郵便番号

都道府県を選択してください

ご住所1

ご住所2

情報が掲載されるわけではございません。）

ゆくゆくは、同窓会会員のみが利用できるコーナ―の設置や、ミクシイのような会員同士が旧交を温め合うことが出来るようなソーシャルネットワーキングサービス機能を持たせたりという構想もあります。

皆さまのご協力によって、より充実した東櫻同窓会サイトを作っていきたいと思います。よろしくお願いたします。

年次だより

昭和四年卒

たつみ会

卒業して早七十九年、月日の立つのが大変早く感じられます。私達の会は毎年開いております。四月二十四日朝お天気にもぐまれ、うぐいすの声におくられて家を出ました。(植物園で鳴いているのでしょうか)今年も昨年を引き続いて平安会館で開きました。本年は遠方からの毎年出席される井関、桑山、岡田さんが欠席され大変残念です。出席は男子二名、女子八名、計十名でした。食事は新緑の青々とした庭をながめながらおいしい昼食をいただき、いろいろと若き日の思い出話にお話はつきませんでした。食後はお部屋でスナップ写真をとっていただきました。足のお悪い人もおられました。早くよくなるようお願いしております。来年の再会を楽しみにお別れしました。

(山内義清・川合恵美子)

昭和十二年卒



八十歳を過ぎて同級生はほぼつ黄泉へ旅立つ。そして誰もが何かを残して逝く。神戸大学法学部教授だった塙浩氏から部厚い封書が来てから久しい。回想や随筆の数々をコピーしてたくさん送って来た。それは日頃の仕事以外の浪漫に溢れている文章だった。

殆んど戦時中を下敷にしてはいるのだが幼い頃胸に名札を付けて入学したあの頃の微笑みが滲んで

いる。文中

「一寸蠅螂の斧を振り上げて頑張って貴女に贈る」とあった。

そして間もなく他界されたそう。卒業後、久しく語り合う機会もなかったのだが、封筒の差出人は、

茜さす紫野の住ひ人

はなわひろし

とあった。

(梶山千鶴子)

昭和十四年卒

新櫻会

平成十八年五月末、南禅寺近くの料亭「菊水」で盛大に行いました。出席者二十四名(半数以上)。傘寿を祝う会であると共に恒例的な会の終わりのものでした。今後は老齢化が進むので手間費用を軽減した会、即ち仲間同士が電話で連絡し合って気楽に集まり食事やお喋りをするやり方に変えました。現在新方式で度々集まっています。

(坂本誠之)



昭和十五年卒

附友会

年一回開催にしてから出席率はむしろ上昇気味で、今年は五月十日京都ブライトンホテルで開いたところ、女子十三名、男子十名、計二十三名が集いました。関東方面、三重県など遠距離参加も多数ありました。

矢野敏郎君という眼科医が二年





平成十九年十月十八日、ホテル日航プリンス京都で傘寿のクラス会がもたれました。十二名が元氣よく参加し賑々しく楽しいひとときでした。当然ながら話題は老後の事ではなく、各自には心に収獲

菊桜会

■昭和十六年卒

間自ら進んで沖縄県宮古島の離島に行き、無医村で奮闘されました。民放テレビでも紹介されました。彼の話を聞き、八十近くになっても頑張る勇気を貰いました。来年も一人の欠員も出さず再会を約束しました。(太田 寛)



十月二十五日にホテルグランヴィア京都において本年の午巳会を開催。東京、横浜等遠方から十名、京阪神から十一名、合計二十一名が出席。近況等語り合い、楽しく、有意義なひと時を過ごしま

午巳会

■昭和十七年卒

があつたと思います。これで恒例のクラス会は打ち切り、次回からは随時にとりう事にしました。又元氣でお目にかかりましょう。(井上佳子)



十月一日、からすま京都ホテルで開催。恩師泉先生の卒寿、私達の喜寿とお祝いが重なり特注の池田屋さんの「附」の焼印の入った

紫桜会(平成十八年度)

■昭和十八年卒

した。後半、藤井薫さんの指導で「千の風になつて」「故郷」を合唱。一旦閉会后、ホテル二階のル・タに全員が移動、暫し思い思いの会話を楽しみました。(大塚敏行)



はげしかった夏の後、秋の気配まちわぶる十月十四日(日)、平成十九年度紫桜会を開催しました。静岡や千葉、福井等遠方からも馳せ参じ下さり、生徒十七名お元氣な恩師泉先生を囲んで一同近況

(平成十九年度)

紅白饅頭を配りました。大分小さくなったように思いましたが、懐かしさ一入でした。近況を報告し思い出を語りあつという間の四時間余り。豊饒たる泉先生を指針として来年の再会を約し散会。なお数年前から春に一泊の旅をして居ますが、これも参加者が年々増えて居ります。(北丸幸子)

報告等たのしく歓談しました。
たのしい時間はアツと云う間に過ぎ去り、来年の又元氣な出逢いを約して散会しました。

(尾崎和子)

■昭和十九年卒

イロハ組合同クラス会

今年は十一月九日(金)開催。喜寿のお祝いに、三十五名がタワーホテルに集まりました。

口組の卒業時の担任であった吉岡薫二郎先生が昨年十二月十三日に九十五歳の長寿を閉じられ、その他の先亡にも黙祷を捧げて開会



しました。

会が進み、臨海学舎や多くの小
学唱歌を歌って楽しく過ごしまし
た。

(武居三郎)

■昭和二十年卒

去る六月九日(土) 高台寺土井
で中西先生(い組担任)の御出席
をえて三組(いろは) 合同の同窓
会を開催致しました。久しぶりの
合同の会に参加者一同の笑顔がこ
ばれました。なお、芦田先生(ろ
組)大槻先生(は組)は以前に御
逝去され御出席はかないませんで
した。

合同の同窓会は久しぶりの事で
した。また、出席者もい組十二人、
ろ組四人、は組十三人と少なく、
今後、合同のクラス会の開催も決
定できませんでした。

今後、ますます人数は減ること
と思いますが機会があれば同窓会
をひらき旧交をあたためたいもの
です。今回の幹事は絹川・井上・
古川の三名でした。(井上頼纈)



■昭和二十一年卒

昭和二十一年卒同窓会のお知らせ

同期の皆様、その後お変わりあり
ませんか。如何お過ごしでしょうか。

後日改めてご案内いたします
が、あらかじめ本誌にてお知らせ
し、多数のご参加をお待ち申し上
げます。

◇日時 平成二十年六月十一日(水)

十三時～、二次会 十七時～

◇場所 ウエスティン都ホテル京

都(地下鉄蹴上すぐ)

◇会費 一万円(二次会二千元)

本会には久しく不義理いたして
おりましたが前回からお世話に
なっております。前回は京の奥座
敷貴船の川床で皆様とお話するう
ち六十年前の旧友のお名前と顔が
甦って参りました。

会についてのご意見や情報がご
ざいましたら左記へご連絡下さい。

〒六〇七-八四二五 京都市山

科区御陵上御廟野町二四ノ三

電話 〇七五-一五〇-一二二八五

なお泉井彬、圓城八洲子(高折)、

野田輝子(平松)のお三方にお手

助けをいただいております。

(世話人代表 瀧野喜八郎)

■昭和二十二年卒

いぬい会

二〇〇七年三月、京都駅烏丸中
央口ホテルグランヴィアで戌年と
亥年生まれの会、「いぬい会」同
窓会が開かれました。国民学校世
代の私達はまた疎開学童世代でも
あり、男子組、女子組の他に、科
学学級という、武器開発のための
科学者を育てる名目の理数科だけ
しか学ばないクラスもありまし
た。このまま戦争が続いていれば
片寄った人間が出来上ったかもし
れませんが幸い皆優秀な成績で東
大や京大へ進学されました。私共
も戦後新制中学第一期生として附
属中学で学び、軍事教育から一転
して民主教育を受けました。

三月のクラス会では、出席者三
十八名が幾つかのテーブルに分か
れ、懐しい面々と会食、各自近況
報告をし、会員の麗子さんのヴァ
イオリンに聴き入り、テーブルご
とに記念写真を撮り、なごやかな
雰囲気の中で閉会。翌日は毎回
恒例の「女性いぬい会」を東京組
を含めて十三名で加茂川畔「ちも
と」で開きました。明治雛などが

華やかに並べられた座敷で雛祭を
楽しんだあと、別室で雛御膳をい
ただきました。私共の世代はもう
京都に親のいない人が多く、京都
に来て娘時代を想い出すことしき
りでした。この次も皆元気で、と
再会を約し散会しました。

(五十嵐桜)

■昭和二十三年卒

君の名は

私達は還暦の年以来二年ピッチ
で同窓会を「附三会」(新制中学
の第三期卒業に由来する)と称し
て続けてきました。今回は四月十
四日に京都ホテルオークラで一年
半ぶりでの開催でした。

当初の参加予定は東は越谷から
西は高知まで九つの府県から四十
二名の参加を数えました。しか
し、日が迫るに従ってキャンセル
が入り、櫛の歯を挽くとはこの事
かと、幹事一同はままならぬ年を
痛感しましたが、元気に顔をそろ
えた三十六名の過半は二次会もが
んばって、次回は一年後だと意気
軒昂でした。

一寸、思いついて中学三年の卒
業記念写真を準備しました。五、

六年前の君の名が定かでなく、宴
席の話題の一つとして銘々に思い
出して頂く事にしました。幸いな
事に宴の終わりにには一つの空白も
残っていませんでした。

あら不思議！名前が分ると、鮮
やかに往時が思い出されるではあ
りませんか。お試しあれ。

(井上良二)

■昭和二十四年卒

若干旧聞に属するが、初めての
学年旅行を、古希記念と銘打って
平成十八年九月に実施した。目的
地は「下呂温泉・高山見学」と決
定。申し込みは、一時は五十三人
に達し、バス一台に乗れないぞと
心配したが、最終的には四十一人
に納まった。

関西勢は京都駅南口から観光バ
スで、関東勢は新幹線で、それぞ
れ名古屋に向かい、ここで合流す
る形を採った。

一日目は、下呂の合掌村を見学
し、宿舎「水明館」へ。温泉にゆつ
くり浸かっていよいよ懇親会。あ
ちこちに話の輪ができ賑やかなこ
と。懐かしい歌の大合唱で宴を打
ち上げた。

二日目は、高山陣屋見学と市内
観光。昼食後名古屋へ。車中では、

「附属時代の思い出、今だから話
せる話」が披露され、今まで聞い
たこともない裏話や、事の真相が
暴露されて、笑いや嘆声が連続し
た。そうこうしている間に名古屋
到着。関東勢は下車し、旅は一段
落した。

(迫田恒夫)

■昭和二十七年卒

平成十七年五月三十日、昭和二
十七年の卒業生の同窓会を南禅寺
飄亭にて開催いたしました。当日



住小・中同窓会 2005. 10. 30 南禅寺飄亭別館

は天候にも恵まれ、南禅寺の新緑
を堪能し、五十数年前の話しに花
を咲かせ、再会を楽しみに散会し
ました。全国各地より四十六、七
名の参加でした。(河合大介)

■昭和二十八年卒

平成十九年十月八日、ホテル京
阪京都に於て、五十二名出席のも
と同期会がB組担当で、二年ぶり
に開催された。東京、横浜、埼玉、
静岡、岡山、徳島等からの出席が
あり、記念撮影等し、なごやかな
懇親会が始まった。司会者の指名
でそれぞれ、近況が報告された。
まだ現役でがんばっている人、退
職後趣味を楽しんでいる人、ボラ
ンティア活動をしている人等色々
です。東京での同期会も盛んに開
かれていた様子も話された。部屋
を変えて二次会も行なわれ、多
数出席そのままホテルで泊る人も
あった。翌九日は世話人の一人海
老原さんのご尽力で、小学校から
転校された野村明賢さんにお願
いし、野村別邸「碧雲荘」の見学が
行なわれた。ここは大和銀行創設
者、野村徳七翁の別邸(非公開)
で三千坪の地に平安朝風の壮大な

庭園と建物が造営されている。非常に良い天気で、池には白鳥が泳ぎ、茶室がいたるところに建っておりさらに能楽堂まであり趣味の深さに感心させられた。その後近くの南禅寺順正で昼食を取り、次回はC組担当で再会を約束し楽しく散会した。
(加藤二郎)

■昭和二十九年卒――

九月二十九日、グランドプリンスホテルにて吉川禮三先生、畑井多津子先生をお招きし同期生四十三名が集い、中学卒業五十周年、同期会発足三十周年記念の会を開催しました。

会場に三つの展示コーナーを設け、一つは作品展示。プロとしてあるいは趣味として取り組んでこられた、ガラス工芸、陶芸、絵画、リトグラフィ等、多様な作品が並び展示後その一部を福引の賞品として提供して頂きました。二つ目はボランティア活動に携っている人達のそれぞれの活動の様子を写真や資料で紹介。三つ目は思い出の品を持ち寄り展示。小・中学校入学時の親子写真、校外学習や学芸会の衣装での写真。卒業アル

バム、文集。同期会の全体写真の年次順のファイル等が集まりました。長年の懸案であった会の名称と「京学大附属フク・ミニ会：小・中の卒業年号に小さな福の意を込め」と決定。今後の会の発展を願う新たな一歩を踏み出しました。
(垂澤恭仁子)

■昭和三十三年卒――



還暦越えの小学校・中学校合同学年同窓会を平成十八年十一月三

日にウエスティン都ホテル京都で開催しました。平成十三年四月の高台寺同窓会以来、五年振りの再会とあって全国各地から懐かしい面々約六十名が参集し、小学校恩師の花坂雅夫先生、中学校恩師の吉岡克己先生をお迎えして楽しいひと時を過ごしました。(畑和彦)

■昭和三十四年卒――

学び舎を卒業し約半世紀が瞬く間に過ぎ、齢六十に至り人生の回帰点で懐かしい幼い頃の友との親交を呼び戻す為に、メール連絡網の構築に数ヶ月を掛け、出来る限り多く集める事に腐心しました。皆が集まり易い真冬の二月十一日を敢えて選び、何度も同窓会のテーマである『新たな出発、よき旅を！』を呼びかけた結果、百五十人中百人の同窓生が各地より集り、十時間に達する大騒ぎの同窓会を催すことが出来ました。初

老とは言えまだまだ魅力に溢れた方ばかりで、昔に戻り、時を超え、男女区別の無い幼な友達が三代会では祇園の狭いクラブに五十人も押し寄せ、時の経つのも忘れ、夜更けになっても去り難く、妙に附

属の友は懐かしさが込み上げて来る楽しい夜を過ごせました。暫くして祭の後の空しさが、皆の脳裏に津波のように押寄せ、又、逢いたいとの想いが日ごとに募るのは附属の魅力の一つではないでしょうか。
(三宅利幸)

■昭和四十五年卒――

南校舎の思い出

私達の学年は、中高の同窓会を主に、何年か毎に開いています。また個々に連絡をとり合い、互いに情報交換したり、会食したりして、絆を深めています。

その中で小学校の時の話になると、四年生の時の南校舎の思い出が出てきます。

プールの北側に、木造の二階建ての校舎がありました。油びきのにおいがして、階段も木で、キシキシときしむ音がしていましたが温かなぬくもりのある校舎でした。冬になると、日直が、本館中央階段の地下へ、石炭を取りに行きストーブを炊きました。暗い地下室へ行くのが怖かったり、手まっ黒けにしたりして、運んでいました。石炭ストーブの暖かな炎

をみんなで囲んで、よくおしゃべりをしていました。給食のパンを焼いてもらったこともありました。

あの南校舎で勉強したのは、私達の学年が最後だったと想います。

高学年になった時は、南校舎は遊び場のようになり、走り回ったり、かくれんぼをしたりして、みんなの遊びの基地になっていたようです。

いつ、こわされたのか記憶にはありませんが、きんもくせい香と共に、南校舎の思い出が心に残っている四十五年卒の仲間です。

■昭和五十三年卒

平成十八年十二月三十日、京都全日空ホテルにて小学校卒業後初めての三クラス合同の同窓会を開きました。今回、三年に一度の東櫻同窓生の集いの幹事学年になるので、一度集まろうという声が上がりました。年末の帰省の時期を選んで行いましたので、北海道からの参加者もありましたが、逆に年末で忙しいので参加できないという声もありました。それでも男十六名、女十二名と卒業時の担任を受け持っていた先生から

藤本榮樹先生と片岡弘正先生にご出席頂きました。

卒業して三十年ほど経ちますが、多少のサイズの変化はありますがみんな昔のまんまでした。一人づつ壇上にあがり、現況と小学校の思い出を話して頂きました。楽しいひと時でした。

次回は六月二十一日の東櫻同窓会で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。ぜひご参加、お手伝い宜しくお願いします。

(佐藤元紀)

■昭和五十四年卒

平成十九年十二月二十九日、先斗町にある「いろは北店」にて、二年ぶりに同窓会を行いました。忙しい時期にもかかわらず、二十八名の参加があり、旧交を温め、楽しい時を過ごしました。参加できなかった方、こちらの手違いで連絡がつかなかった方には申し訳ありませんでした。この場をお借りしてお詫び致します。不定期で行っている同窓会ですが、今後も多くの方に御参加いただき、末永く続けて行きたいと考えております。

(中野 浩)

■昭和五十五年卒

四十歳の再会

暖かな陽射しが心地良い黄金週間の一日、市内の某ホテルにて、高校卒業以来お目にかかる機会もなかった恩師や友人達に久しぶりにお会いする事が出来、その後の話や、その当時其の俣の恩師の笑顔に接し一瞬にして幼いころに戻り楽しいひと時を過ごしました。

皆、紫明の学舎で机を並べ勉強していた時には想像も及ばない立派な大人になっておられました。いろいろな道を歩み、その道のりの長さと同様舞臺で精一杯頑張っておられるのを感じ、嬉しく頼もしく思い、又の会合を約束しました。

やはり、幼馴染の学友は良いものです。勉強やスポーツで競い合った事も、喧嘩して仲直りした事も、今は全て良い思い出となり、昔に戻るのと同時に、大人同士の新しい出会いの感じも感じました。

これからの皆様の健康と発展をお祈りいたしております。

(山田史恵)

■平成三年卒

私たちは一九九一年に附属京都小学校を卒業しまして、十七年が経ちました。いよいよそれぞれの人生模様が違ってきて、再会するたび、近況報告から始まり、同級生の活躍やら、頑張りやら、に会話が弾みます。そろそろ、お父さん、お母さんになる人が、ちらり、ほらり出始めています。男性陣のほうが多いようですが、就職、結婚、そして親にと、会うたびに家族が増え、数年前とはずいぶんと暮らしが、変わってきています。仕事もそろそろ、キャリアがで始め、転職する人もちらほら、聞きます。女性では結婚後、旦那さんの転勤で、見知らぬ土地で新生活を始める人もいます。また、夢が忘れられず、安定したお仕事をやめ、大学を再受験している人もいます。かつては附属京都小学校で同じ時間をすごした仲間が、今では十人十色です。近況報告に驚き合いながら、自分も頑張ろうと、パワーをもらう今日この頃です。

(樋口玲子)

同窓生点描

涙をもって種まく者

昭和五十三年卒 竹内 基成



この欄に、各分野でご活躍の皆様、に混じって自分のような者に御声がかかるなんてことは考えもしなかったことで、申し訳なく恐縮に思っています。

原稿を書かせていただいている今（十月下旬）、窓から吹き込む風が金木犀の香りを運んできます。附属京都小学校の校歌にも歌われている、懐かしい香りです。正面玄関の石庭に植えられていた金木犀の木を思い出します。

自宅が学校のすぐ裏でしたから、小さい時から自分の庭のような感覚で、楽しくすごさせていただいた六年間だったと思います。大学進学で京都を離れるまで、自宅におれば附属京都小学校の校内放送や子供達の歓声がよく聞こえ

ていました。

大学は北海道の農学部に進み、主に工芸作物の研究をしました。工芸作物というのは、直接私たちの口に入るものではありませんが、砂糖の原料になるビートや、畳の原料であるいぐさ、などの作物をいいます。卒論のテーマとしてあてがわれたのは、家畜の飼料である「牧草」でした。論文のテーマは確か「イネ科牧草の発芽と出芽に及ぼす寡水分ストレスの影響」という感じの内容で、簡単に言えば、水分が十分なときと不足のときの違いを検証し、干ばつ時にも適応できる品種の選定や、農地管理の方法を考察するというものでした。

大学卒業後、京都のロゴス神学院に進み、四年間牧師になるための勉強と訓練を受けました。その後、教会に遣わされて「伝道」と「牧会」の奉仕をさせていただいています。今年で十五年になりますが、京都で三年、北海道で八年、

今大阪で四年目を迎えています。

農学部と全く畑違いの道に進むことになりましたが、進路を決めるその時その時に転機が与えられ、自分の意志を超えた大きな御手によって導かれてきたことを思います。後悔はありませんし、この道を全うさせていただきたいとの思いで一杯です。

ただ、「畑違い」と申しましたが、実はそうではないと思うことが多いです。聖書の中では、真の神様のことを「良き羊飼い」と言っていますし、教会の成長と発展も、土を作る段階、種を播くこと、水を注ぎ肥料を与えて育てることを経て、収穫の喜びに預かることができるものだと思感しています。

旧約聖書の詩編の中にとっても素晴らしい御言葉がありますので、最後にご紹介して終わりたいと思います。

「涙をもって種まく者は、喜びの声をもって刈り取る。種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくる。」（詩編一二六・五一六）皆様の「ご活躍」とご多幸をお祈り

いたします。神は愛なり。

国連PKO人道支援 世界の紛争地から

昭和五十四年卒 北丸 薫子



九七年に国際赤十字委員会と日本赤十字の合同プロジェクトの監理を任せられ、紛争後間もないボスニアで一年間、知的障害者施設

の復興に携わったのを皮切りに、その後WFP国連食糧機構と国連PKO局の人道援助の仕事でイラクに四年間、そして一番最近では中央アフリカに位置するコンゴ民主共和国で二年間、国連PKO局で外国人ゲリラに非武装と本国帰還を促す仕事をしました。

小学生の頃から持っていた世界の平和に役に立つ仕事をしたいという漠然とした夢がかなった事に

なります。ただ実際の仕事はずっと大変で泥臭いものでした。水道も電気もないジャングルや砂漠で誰にも知られずに苦労しても、甲斐なく紛争が再発してしまうこともありま。せつかく説得して投降してきてくれたゲリラ兵達が多た武器をとる状況になる事もありま。○三年のバクダッドでの国連本部爆破テロ事件の際には上司や同僚を亡くしてしまいました。平和な日本に生まれたのに、私はこんな所でわざわざ何をしているのだろうと思うこともあります。でも苦労も吹っ飛んでしまう位の喜びもあります。紛争で誰からも忘れられ、飢えと寒さに苦しんでいたボスニアの知的障害者達の私達を迎えた時の嬉しそうな顔、平和好きで誇り高いイラクの人達と議論をしながら一緒に働く時、命がけの脱走をしてきた少年ゲリラ兵の不安な表情が国境で和らぐ瞬間。こんな仕事ですが、私は附属でオールマイティな教育を受けたいお陰で、どんな状況でも上手くストレスを溜めずスポーツを楽しみ、面白そうな事には全て参加しています。また附小での「過酷な」

遠足を思えばちょっとしたジャングル行程なんか平気平気。押しの強い附属の生徒達に囲まれて育ったお陰で、言葉など通じなくても気後れせずに自己表現ができるのが役に立っています。コマドリ学級のお友達と一緒に遊んだり学んだりしたお陰でボスニアの知的障害者施設の事業にもごく自然に入っていけ、現地の関係者から信頼を得ることができました。思えば附小では、たくましく楽しく生きる技を得たわけです。

台湾在住 貿易商社経営

夢を追って

昭和五十五年卒

菅野 敦之



「夢を追って」などと書くところを「何をたいそうに！」と笑

われてしまいうである。しかし、私の夢は最初から一貫して中国貿易で身を立てることであつた。

日本を離れてまもなく十二年。その間上海、北京、台湾と場所は移ったがずっと中国語圏に身を置

いている。厳密に言うところ中国貿易ではなく台湾貿易なのだが、独立を果たし、台湾で自分の会社を持つこともできた。

今やっている仕事は台湾の工業製品を日本に輸出することである。子供向けカードゲーム機のバーコード読み取り部分など電子製品が中心である。また酒やペットボトル飲料の瓶詰めラインも北海道から沖縄まで納めさせていたっている。他に金属加工品や肉まんの具材（段ボールでは無いですよ！）等お客さんから頼まれた何でも扱っている。

商売をしていてなんと言つても大変なのはクレーム処理である。幸いにして日台間にはそれぞれ北海道から沖縄まで毎日何十便もの飛行機が飛んでいて便利ではあるが、すぐに飛んで行かないといけない。機械の故障ともなれば一刻も早い対応が必要だ。沖縄などは日帰りなんて事もしばしばある。昨年那覇空港での中華航空機炎上事故では大丈夫かとご心配頂いた。乗り合わせてはいなかったが、外国で働くことの危険さを改めて感じたものである。成り行き

で今は台湾にいるが、大陸再上陸の望みは捨ててはいない。その時台湾での経験が大いに役立つはずである。

私をこのようにずっと夢を追いつつ続けられる人間にしてくれたのはなんとと言っても小学校で受けた教育に依るところが大きい。昨年行われた学力テストでは国立学校はトップだったそうである。当時そのようなテストが有れば私はもちろん足を引っ張る側であつただろうが、附属にいなれば取れないような成績を取っていたはずでもある。学力だけではなく、臨海、林間、スキーといった他の学校ではできないような様々な活動も私の経験を豊かにしてくれた。そしてそこにはいつも何の取り柄もない私から、力を発揮できるよう導いて下さる先生方の姿があつた。

各界でご活躍されている立派な同窓生の方々とは比べるべくもないが、自分なりに頑張っているぞと胸は張れる。この場を借りてお礼を兼ね、恩師の皆様に報告させていたきたい。

まだ道半ば。これからも夢を追いつつ続けたいと思う。

櫻の実会

近況と今後の在り方

小谷 壽

(昭和十五年卒・櫻の実会世話人)

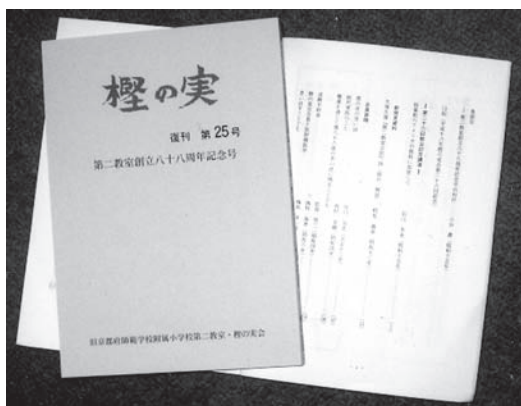
「櫻の実会」は、大正七年四月創立されて昭和十八年三月に閉鎖された旧京都府師範学校附属小学校第二教室の出身者と閉鎖当時の在籍者の同窓会です。石野琢二郎先生ら大正九年第一回の卒業生が尽力されて、昭和三十五年第一回総会が開かれ、翌昭和三十六年には復刊『櫻の実』第一号が発行されたところには六百を超えていた会員数が、最近では連絡可能の会員が二百二十名程度に減ってきてしまっています。このような状況になったのは、新会員が入ってくるものが全くない「櫻の実会」が背負っている宿命です。

このような事情を考慮して櫻の実会は、平成十六年開いた理事会で、これまで隔年に開催してきた総会・後援会を平成十八年に開くものを最終とすること、またこの

最終総会に合わせて会誌復刊『櫻の実』第二十五号を「第二教室創立八十八周年記念号」として編集・発行することを決定しました。また同時に会員の高齢化が進む状況を直視して、この記念号をもって復刊『櫻の実』の発行を停止することも決定されました。

『櫻の実』最終号

表紙、目次（部分）



『櫻の実』最終号は六月初め、第一回卒業生の大塚久雄先生（経

済学者、文化勲章受章者）の『第二教室日記』抄を、稲垣眞美氏（昭和十三年卒・作家）の紹介・解説付きで掲載、発行することができました。創立八十八周年記念の最終総会は、平成十八年六月十四日、京都ホテルオークラにおいて開催されました。参加者数は連絡可能な会員数の約三分の一にあたる六十九名にのびりました。

講演会ではまず大橋慶彦氏（昭和十八年四年修了）が「アフリカ孤軍奮闘記」という題で、伊藤忠商事社員としてアフリカに延約九年の長きにわたって駐在されていたところの数々の思い出を話されました。続いて、整形外科医、また病院経営者として活躍されている高橋浩氏（昭和十八年五年修了）の「長生き」と題する講演がありました。「結論的には、少々ボケても元気で長生きする、というのが人生の勝利者と考える」との言葉で話を結ばれました。

講演会の後、最近逝去された二十一名の会員に黙祷を捧げ総会議事が始まりました。会務、会計、会計監査報告があった後、石東哲男常任理事（昭和十七年卒）より、

従来の理事、監事による運営に代わる今後の櫻の実会の運営・組織についての、平成十八年五月の理事会決定事項が報告され、異議なく承認されました。今後櫻の実会は世話人によって運営され、親睦のため全出身年度合同の懇親会の開催や会員への連絡がその主な会務となります。次いで写真撮影の後懇親会へ移りました。

開宴となつてからは、来賓の松井榮一先生（京都教育大学名誉教授・元附属京都小学校校長）、森重敏先生（東京都立大学名誉教授・教育学者）ほか三名の会員からスピーチを頂きました。松井先生は、木造校舎時代の第一教室の玄関、師範学校講堂などの写真を示しながらお話し頂き、一同懐かしい気分になりました。和やかな雰囲気の中宴は続き、予定時間を大幅に超過してお開きとなりました。

次の「櫻の実会」懇親会は、平成二十年六月十八日京都で開催することが決まっています。元気に出席できる会員がいる限り、懇親会は続けたいと思っています。

東部東櫻同窓会総会

昭和二十二年卒 岡部 陽二

今年の「東部東櫻同窓会」総会は六月二日（土）午後一時から丸の内の日本工業倶楽部において会員四十八名の参加を得て、開催されました。

会場の日本工業倶楽部は先月オープンしたばかりの「新丸ビル」に隣接、地下道で繋がっており、交通至便で、会場の雰囲気もよく、参加者には大好評でした。参加者数が例年比やや少なかった点は、反省を要します。この時期には同窓会などが接踵していることもあり、土曜の午後は出にくいとの声も聞かれましたので、今後はウィークデーの夕刻に開催することとしました。

総会での重要議案は、本同窓会の会則改正で、①会長や会計担当の任期を定める、②会員の範囲を附属京都小・中学校の在籍者に限定、高校のみの在籍者は外すといった点が、主要な改正点でした。

同窓会名簿についてのお願い

名簿委員長 山本あや子

これまで同窓会の会員名簿は、会員の方々のご協力によって三年ごとに改訂作業を行ない、発行されてまいりましたが、近年の個人情報保護法施行により各方面で名簿の発行が控えられる傾向が高まってきました。

東櫻同窓会でも十一月の常任理事会で平成十七年版発行をもって終止符を打つことが決定されました。しかし同窓会の活動上、東櫻だよりをお届けするためにも名簿はなくてはなりません。会員名簿としての発行はしなくともできるだけ最新の情報を更新していく必要がありますので、会員の方々は、この事情をご理解いただき、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

女声コーラス
アンサンブル東櫻へのお誘い

「おはようございます！」

挨拶の後、体操・発声練習をしいよいよ六月開催「東櫻同窓生

のつどい」に向けての新曲レッスンが始まりました。

多事多忙の日常から開放されたメンバーが集まり、美しいハーモニーを目指して月二回励み、まもなく四年目になります。

新曲に出会うたびに、「こんなんできひん！」と思うのですが、何とか少しずつ形になってくるのはとても充実感があります。

今回四度目のステージで本番前のドキドキ感と、本番後の達成感をもっと沢山のメンバーと共有したいと願っています。

六月に向けて皆様も是非ご参入ください。一緒に感動しましょう。連絡先

〇六―六七二五―七七〇〇

竹村 正子

京都紫FC創立40周年記念
祝賀会のご報告

昭和六十二年卒 阪田 和哉

今年度、京都紫FCは創立40周年を迎えることになりました。また、今年は迫田恒夫代表の古希の年にもあたり、これらを記念いたしまして、八月二十五日（土）に国際会議場「さくらの間」にて、

『京都紫FC 創立40周年記念祝賀会』を開催しました。

祝賀会には、現附属京都小学校副校長の多田光利先生をはじめ、これまで京都紫FCの活動を支えて頂いた方々、総勢およそ230名の方々にご出席を得、盛大に執り行うことが出来ました。祝賀会では、迫田恒夫代表よりチーム戦績や近況報告などのお話がありました。その中でも特筆すべきは、永い間、代表・監督を兼任してこられた迫田先生から、19期の阪田和哉氏（附小一〇〇期生）に、来年度からの監督をお願いする、と言う発表があった事です。歓談の間は、先輩、後輩、同期の戦友たちと昔話に花を咲かせ、懐かしい顔ぶれとの話は尽きませんでした。この会を境にまた交友の輪が広がったように思います。短い時間ではありましたが、とても楽しい時を過ごしました。附属小学校のグラウンドでは、40年前と変わらぬ姿があります。これからも京都紫FCが発展していけるようにOB会・後援会が一丸となって頑張っ

常任理事会報告

常任理事会は、名簿・行事・広報の三部で構成されており、それぞれが担当業務をこなすとともに、全体が集う場を年に二・三回設け、同窓会を運営していく上での諸課題について検討し、方向づけをしています。事業を企画運営する実行委員会（幹事の三学年）とは、きめ細かい連携を図っています。

前号（平成十八年三月）発行以降に検討した内容について報告します。

会員名簿の作成に関して

かつて六年に一回の改訂をしていたが、情報が古いということ、最近は総会のある年に、つまり三年毎に会員名簿を発行していました。しかし、個人情報保護の立場から会員名簿を冊子としてまとめるのは至って危険であり、また掲載を拒否される方もある状況を踏まえ、何回かの議論の末、今回から発行を取り止めることに決

めさせていただきました。

同窓会総会・つどいについての協議

総会・東櫻同窓生のつどいは平成二十年六月二十一日（土）に京都ホテルオークラで行われますが、総会当番である実行委員にも出席を求め、その案内を兼ねた東櫻だよりの編集、総会・つどいの具体的なプラン等について提案いただき、意見を述べたり、助言をしたりしました。

ホームページ

昭和四十五年卒業の宮崎悟郎氏にホームページのやり直しを依頼、完成した際には常任理事会でも母校のコンピュータ室をお借りして実際に視聴した。会員各位に見てもらえる、またコンテンツを送信してもらいやすくなるために意見を出し合いました。

その他

会費問題（終身会費制にできないか）とか、中学の同窓会との関係（小学校と中学校が小中一貫校になった状況をどう見るか）についてとか、なかなか結論が出にくいテーマについても意見を交換しています。

編集後記

平成十七年の秋に幹事を引継ぎ、あつという間に二年半が過ぎました、今年はいよいよ「東櫻同窓生のつどい」開催の年となり、私たち幹事三学年も最後の大仕事と気を引き締めております。

前号に引き続き、多田副校長にご紹介頂いておりますように、小中学校の一貫教育への取り組みが着々と進んでいるようです。時代がどんどん新しい方向へ進んで行くのだと感じます。いずれ同窓会も一つになるのでしょうか。

また、東櫻同窓会のサイトが昨年三月にリニューアルしました。恩師の先生方、同窓生の皆様のお力で盛り上げて頂きますようよろしくお願い致します。

「同窓生点描」では、幹事各学年から三名を紹介させて頂きました。久しく会っていない同級生が様々な分野で活躍していると知り、嬉しく思うとともに、自分たちの励みになりました。

最後に御寄稿、編集にご協力頂いた皆様ならびに中西印刷様に御礼を申し上げます。（中野 浩）

東櫻同窓会会計報告

自平成18年1月1日
至平成19年9月30日

（金額単位円）

【収入の部】

前回よりの繰越金	6,982,341
名簿・会費収入	2,384,000
受取利息	1,051
合 計	9,367,392

【支出の部】

東桜だより作成・発送費 （第16号）	1,050,593
会員名簿発送費	31,280
通信・郵送費	21,425
委員会活動費	295,052
事務用雑費	37,164
次回への繰越金	7,931,878
合 計	9,367,392

会計担当 野村英男（昭和17年卒）

能楽『五人囃子コンサート』



雛祭りの五人囃子、実は能の謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓の五人なのです。能の音楽には、他の音楽ではあまり見られない独特の緊張感があります。これは各パートがそれぞれの呼吸で演奏し、他のパートの演奏呼吸に安易に合わせに行かないためです。コマが遠心力によってバランスを保っているように、互いの呼吸が引き合い、崩壊ギリギリのところで成り立っている「間（ま）」の緊張感なのです。

今回は京都の第一線の舞台で活躍する能の役者が、五人囃子で能の音楽の魅力にスポットをあて、コンサート形式で演奏いたします。

- ・ 楽器紹介
- ・ トーク
- ・ 演奏（演目は解説を交えて紹介いたします。）

出演：謡	味方	玄（観世流）	
笛	杉	市和（森田流）	
小鼓	吉阪	一郎（大倉流）	（附属京都小学校昭和五十三年卒業生）
大鼓	河村	大（石井流）	
太鼓	前川	光長（金春流）	

東櫻同窓生のつどいのご案内

三年に一度の東櫻同窓生のつどいを、下記の要項で行ないます。今回は昭和五十三年卒業生で能楽大倉流小鼓方の吉阪一郎氏にお願いし、五人囃子による「能の囃子のコンサート」を開いて頂きます。

恩師の先生方や旧友との親交を暖め、思い出に残る一日として頂ければ、幸甚に存じます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 平成20年6月21日（土）午後4時30分より（受付開始は午後4時00分）

場 所 京都ホテルオークラ 4階 暁雲の間
京都市中京区河原町御池東北角 電話（075）211-5111

式次第 ・同窓会総会
・懇親会
コーラス（アンサンブル東櫻）
福引きなど
・能楽「五人囃子コンサート」

会 費 一 般 10,000円
敬 老 会 費 7,000円（昭和17年3月以前に卒業された方）
大学生以下 7,000円

ご出席の方は同封のはがき(出席回答票)にてお知らせ下さい。

準備の都合上、5月18日（日）までにご投函頂きますようお願い申し上げます。

